SONY

4-194-154-**01**(1)

デジタルサラウンド
ヘッドセットシステム

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

DR-GA500

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

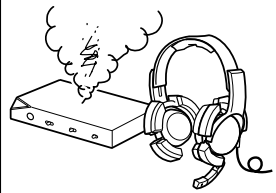
1年に一度は、ほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

➡

❶ **電源を切る**

❷ **ACアダプターをコンセントから抜く**

❸ **ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理を依頼する**

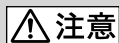
警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・漏液・発熱・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・発熱・発火・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、漏液・破裂・発熱・発火・感電などによりやけどやけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

火災
感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

指定以外のACアダプターを使わない

破裂や電池の液漏れ、過熱などにより、火災ややけが、周囲の汚損の原因となります。

禁止

分解しない

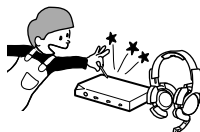
故障や感電の原因となります。内部の点検および修理はソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

火災
感電

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない

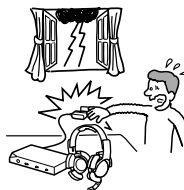
水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、ACアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

禁止

この製品を海外で使用しない

ACアダプターは、日本国内専用です。
交流100 Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

指示

雷が鳴りだしたら、ACアダプターに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。

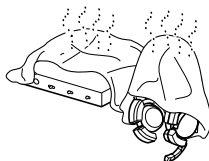
禁止

通電中のACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

禁止

本体やACアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

禁止

かゆみなど違和感があったら使わない

使用中、肌に合わないと感じたときは使用を中止して医師またはお買い上げ店、ソニーの相談窓口にご相談ください。

禁止

長時間使用しないときはACアダプターを抜く

長時間使用しないときは、安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、ACアダプターを抜く

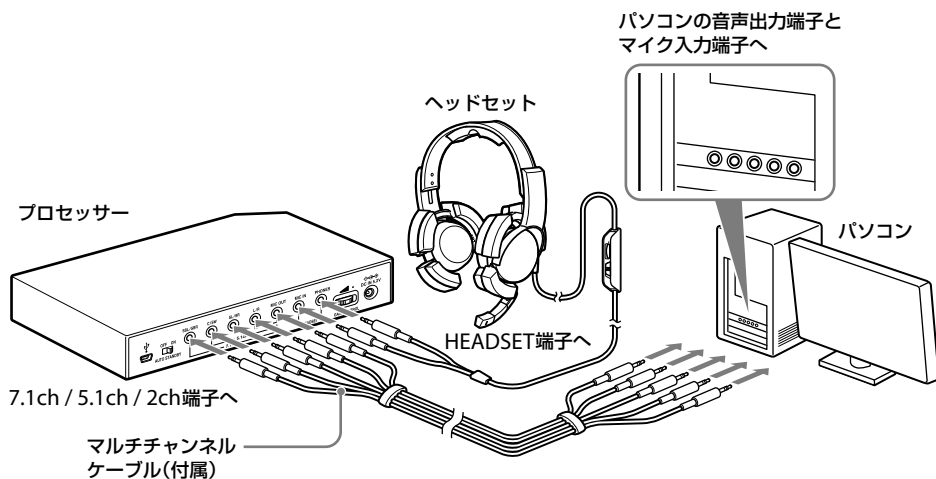
ACアダプターを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

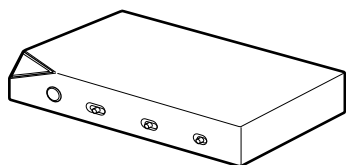
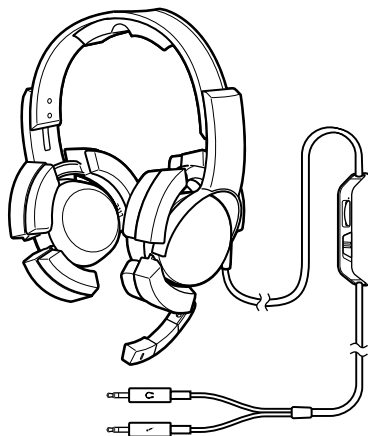
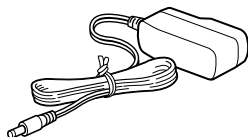
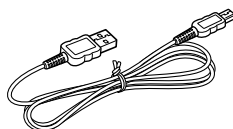
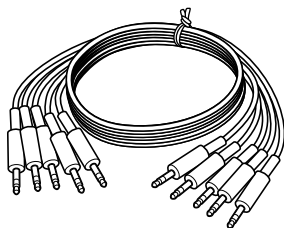
主な特長

- マルチチャンネルスピーカーの立体的なサラウンドを実現する7.1ch VPT（Virtualphones Technology）*1搭載。
- くっきりとした音像定位や、明確な方向感の再現を重視した設定でシューティングゲームに最適な、「FPSモード*2」搭載。
- 入力が5.1ch、2ch、USBでも7.1chサラウンドに拡張するドルビープロロジックIIxデコーダー搭載。
- COMPRESSIONスイッチ切り換えにより、爆発音のような大きな音を小さく、足音などの小さな音を大きくすることが可能。
- 大口径40mmドライバーユニットで、低音から高音までをスムーズに再現。
- 長時間の使用にも快適な装着感を実現するオープンエアータイプ。
- 耳にかかる側圧を分散させ、長時間の使用でも快適な装着感のサポートパッド構造。
- PCゲームに最適な軽量フレームメカニズム。

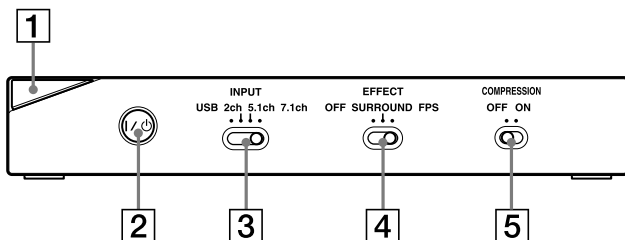
*1 ソニー独自の音響解析技術とデジタル信号処理技術を用いて、映画館やコンサートホールのような臨場感あふれるサラウンド音声をヘッドホンで再現することを可能にするのが、Virtualphones Technology（VPT）です。
*2 FPS(First Person Shooting)などのシューティングゲームに適したEFFECT機能です。

プロセッサーは付属のヘッドセットに音質調節されています。お手持ちの他のヘッドセットでもご使用いただけますが、よりよいサラウンド効果を得るためには付属のヘッドセットをお使いください。

本体／付属品を確かめる

本システムをお使いになる前に、すべてそろっているか確かめてください。

①プロセッサー DP-GA500（1台）

②ヘッドセット DR-GA210（1台）

③ACアダプター（1個）

④USBケーブル（1本）

⑤マルチチャンネルケーブル（7.1ch+MIC）（1本）

各部のなまえと働き

デジタル・サラウンド・プロセッサー

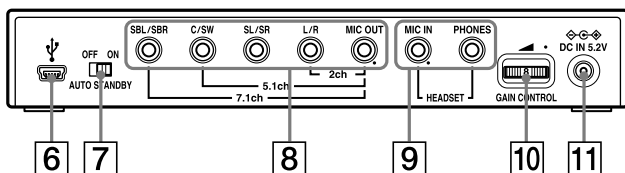
プロセッサー前面

プロセッサー後面

1 電源ランプ（白）
（17ページ）

2 I / ⏻（電源オン／スタンバイ）スイッチ
（17ページ）

3 INPUT（入力切換）
（USB/2ch/5.1ch/7.1ch）スイッチ

4 EFFECT（効果）
（OFF/SURROUND/FPS）スイッチ
（18ページ）

5 COMPRESSION（OFF/ON）スイッチ
（19ページ）

6 USB端子
（12ページ）

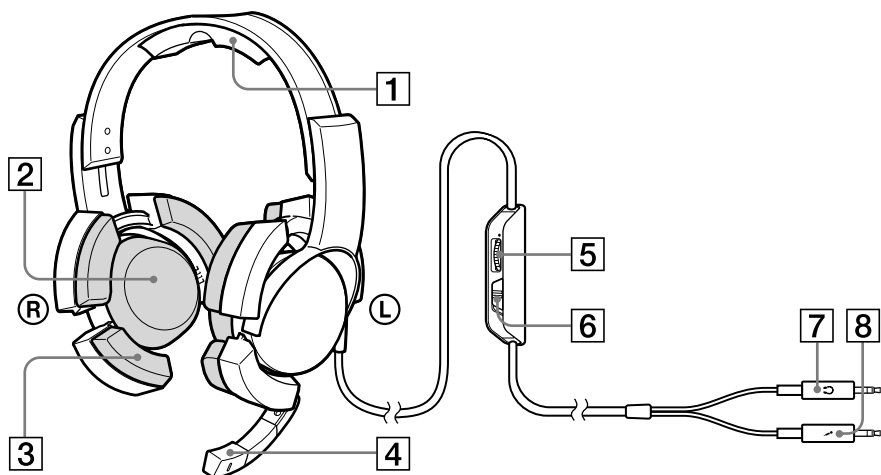
7 AUTO STANDBYスイッチ（OFF/ON）
（20ページ）

8 7.1ch / 5.1ch / 2ch（SBL/SBR、C/SW、SL/SR、L/R、MIC OUT*）端子

9 HEADSET（MIC IN*、PHONES）端子
（13ページ）

10 GAIN CONTROL* つまみ
（20ページ）

11 DC IN 5.2V 端子
（13ページ）

* 識別用の突起（凸点）がついています。操作の目印としてご利用ください。

ヘッドセット

1 ヘッドバンド

2 イヤーパッド

3 サポートパッド

4 マイク

5 VOL（ボリューム）（音量）*つまみ
（17ページ）

6 MIC（マイク） MUTING（ミューティング） (OFF/ON)
（マイクの消音）スイッチ
（17ページ）

7 🎧（ヘッドホン）プラグ（黒）

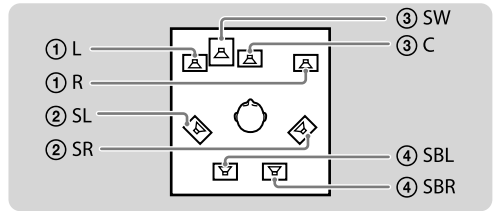
8 🎤（マイク）プラグ（赤）

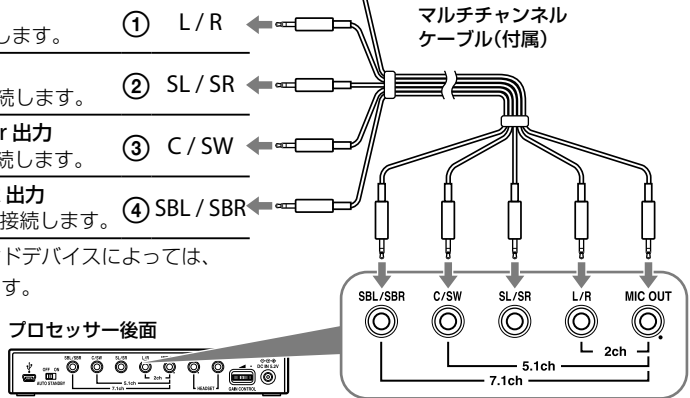
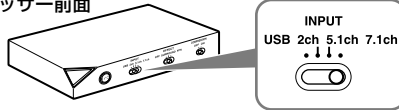
* 識別用の突起（凸点）がついています。操作の目印としてご利用ください。

ヘッドセットシステムを接続する

手順1-Ⓐ：7.1ch対応のパソコンにつなぐ

1 接続する。

図を確認しながら、プロセッサーとサウンドデバイスを接続してください。

サウンドデバイス接続先*		ケーブル端子名
MIC 入力 マイク入力端子に接続します。	–	MIC
L/R 出力 L/R出力端子に接続します。	①	L / R
Surround L/R 出力 SL/SR出力端子に接続します。	②	SL / SR
Center/Subwoofer 出力 C/SW出力端子に接続します。	③	C / SW
Surround Back L/R 出力 SBL/SBR出力端子に接続します。	④	SBL / SBR

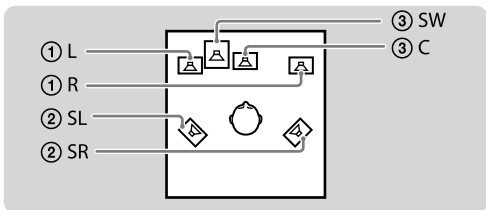
* お手持ちのサウンドデバイスによっては、端子名が異なります。

2 プロセッサーのINPUTスイッチを「7.1ch」にする。

3 パソコンのスピーカー設定を7.1chにする。

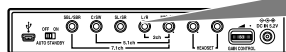
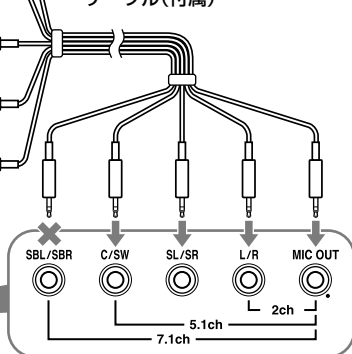
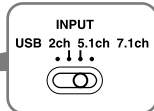
詳しくは、接続するパソコンやサウンドデバイスの取扱説明書をご覧ください。

プロセッサーとパソコンを接続するときに、マルチチャンネルケーブルとUSBケーブルを同時に接続しないでください。同時に接続すると、サウンドデバイスからの音声出力が切り替わる場合があります。

手順1-Ⓑ：5.1ch対応のパソコンにつなぐ

付属のマルチチャンネルケーブルでプロセッサーの5.1ch端子に接続します。EFFECT機能を使うことで、7.1chのサラウンド効果を楽しむことができます（18ページ）。

1 **接続する。**
図を確認しながら、プロセッサーとサウンドデバイスを接続してください。

サウンドデバイス接続先*		ケーブル端子名
MIC 入力 マイク入力端子に接続します。	―	MIC
L/R 出力 L/R出力端子に接続します。	①	L / R
Surround L/R 出力 SL/SR出力端子に接続します。	②	SL / SR
Center/Subwoofer 出力 C/SW出力端子に接続します。	③	C / SW
使用しません	―	SBL / SBR

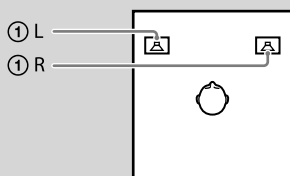
* お手持ちのサウンドデバイスによっては、端子名が異なります。

2 **プロセッサーのINPUTスイッチを「5.1ch」にする。**

3 **パソコンのスピーカー設定を5.1chにする。**
詳しくは、接続するパソコンやサウンドデバイスの取扱説明書をご覧ください。

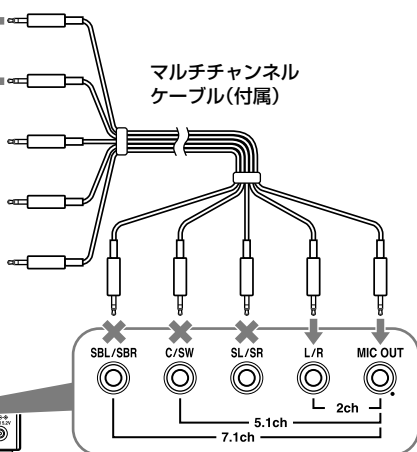
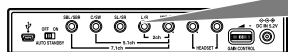
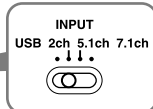
プロセッサーとパソコンを接続するときに、マルチチャンネルケーブルとUSBケーブルを同時に接続しないでください。同時に接続すると、サウンドデバイスからの音声出力が切り替わる場合があります。

手順1-ⓒ：2ch対応のパソコンにつなぐ

付属のマルチチャンネルケーブルでプロセッサーの2ch端子に接続します。EFFECT機能を使うことで、7.1chのサラウンド効果を楽しむことができます（18ページ）。

1 **接続する。**

図を確認しながら、プロセッサーとサウンドデバイスを接続してください。

サウンドデバイス接続先*		ケーブル端子名
MIC 入力 マイク入力端子に接続します。	—	MIC
L/R 出力 L/R出力端子に接続します。	①	L / R
使用しません	—	SL / SR
使用しません	—	C / SW
使用しません	—	SBL / SBR

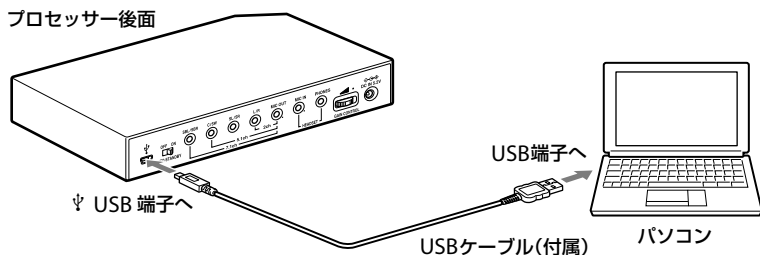
* お手持ちのサウンドデバイスによっては、端子名が異なります。

2 **プロセッサーのINPUTスイッチを「2ch」にする。**

3 **パソコンのスピーカー設定を2chにする。**

詳しくは、接続するパソコンやサウンドデバイスの取扱説明書をご覧ください。

> プロセッサーとパソコンを接続するときに、マルチチャンネルケーブルとUSBケーブルを同時に接続しないでください。同時に接続すると、サウンドデバイスからの音声出力が切り替わる場合があります。

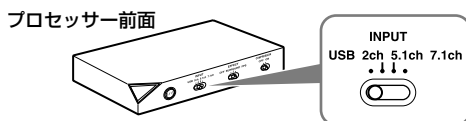
手順1-Ⓓ：USBケーブルでパソコンにつなぐ

付属のUSBケーブルを使いプロセッサーの⫯USB端子に接続することで、プロセッサーを2chのUSBオーディオデバイスとして使用できます。EFFECT機能を使うことで、7.1chのサラウンド効果を楽しむことができます（18ページ）。

1 接続する。

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、およびMac OS Xは、USBドライバーがOSに含まれています。初めて、プロセッサーとパソコンをUSBケーブルで接続し、パソコンのOS起動後にプロセッサーの電源を入れると、USBドライバーが自動的にインストールされます。
パソコン側の異なるUSB端子にプロセッサーを初めて接続したときは、USBドライバーが再インストールされる場合があります。

ご注意

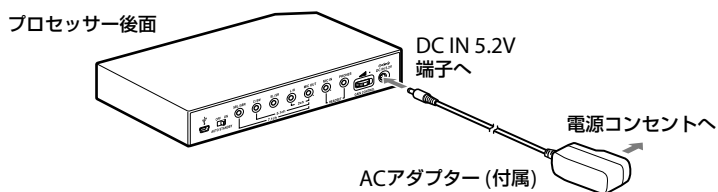
- USBハブ、またはUSB延長ケーブルをお使いの場合の動作保証はいたしかねます。必ず付属のUSBケーブルを使って直接接続してください。
- プロセッサーをUSBケーブルでパソコンに接続すると、パソコン側の音量が最大になる場合があります。ヘッドセット側でボリュームを調節してください。
- デジタル放送の音声はパソコンのUSB端子から出力されません。デジタル放送の音声を聞く場合は、マルチチャンネルケーブルで接続してください（9 ～ 11ページ）。

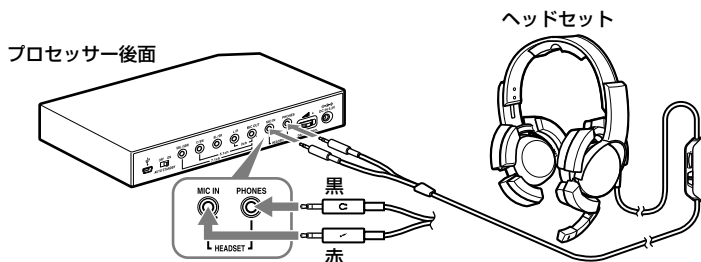
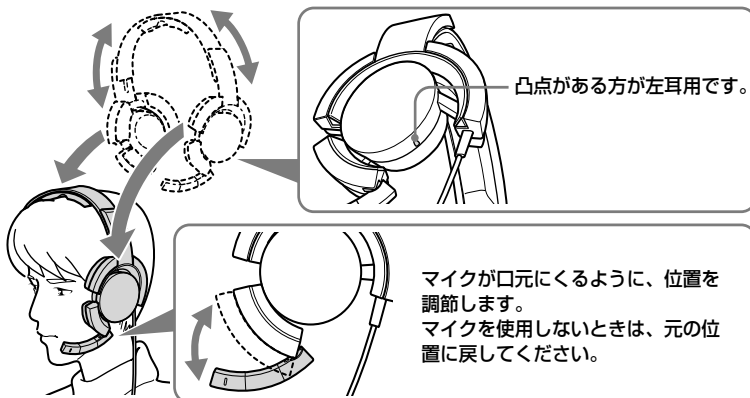
2 プロセッサーのINPUTスイッチを「USB」にする。

3 パソコンのスピーカー設定を2chにする。

詳しくは、接続するパソコンの取扱説明書をご覧ください。

プロセッサーとパソコンを接続するときに、マルチチャンネルケーブルとUSBケーブルを同時に接続しないでください。同時に接続すると、サウンドデバイスからの音声出力が切り替わる場合があります。

手順2：電源をつなぐ

付属のACアダプターを、プロセッサーのDC IN 5.2V端子に接続し、電源コンセントに接続します。

手順3：ヘッドセットの準備をする

1 ヘッドセットの🎤(マイク)プラグをプロセッサーのHEADSET(MIC IN)端子に、🎧(ヘッドホン)プラグをHEADSET(PHONES)端子に、それぞれ接続します。

2 ヘッドバンドの長さを調節し、Ⓡ印を右耳に、Ⓛ印を左耳にしてヘッドセットを装着する。

ご注意

マイクの位置が正しくないと、マイクの感度が落ちたり、ヘッドホンの音がマイクに入ったりします。

手順4：パソコン側の設定を確認する

サウンドデバイスを選択するには

本システムをお使いになる前に、お使いのパソコンで、サウンドデバイスの設定を確認します。詳しくは、お使いのパソコンやサウンドデバイスの取扱説明書をご覧ください。

■Windowsの場合

Windows XP（カテゴリ表示の場合）

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」→「サウンドとオーディオデバイス」→「オーディオ」タブを選択→「音の再生」または「録音」の「既定のデバイス」からお使いのサウンドデバイス（USBケーブルで接続時は「USB PnP Sound Device」）を選択

Windows Vista

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「サウンド」→「再生（録音）」タブを選択→「再生デバイス」または「録音デバイス」からお使いのサウンドデバイス（USBケーブルで接続時は「USB PnP Sound Device」）を選択して規定値に設定をクリック

Windows 7

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「サウンド」→「再生」または「録音」タブを選択→「再生デバイス（録音デバイス）」からお使いのサウンドデバイス（USBケーブルで接続時は「USB PnP Sound Device」）を選択して規定値に設定をクリック

■Macintoshの場合

Mac OS X

「Apple」メニュー→「システム環境設定」→「サウンド」→「出力（入力）」タブを選択→サウンドを出力（入力）する装置の選択からお使いのサウンドデバイス（USBケーブルで接続時は「USB PnP Sound Device」）を選択

音声出力レベルを調節するには

USB接続時はヘッドセットのVOL(音量)つまみを利用して調節してください。
マルチチャンネルケーブル接続時はVOL(音量)つまみの調節に加え、以下の方法でパソコンの音声出力レベルを調節することもできます。

■**Windowsの場合**

Windows XP(カテゴリ表示の場合)

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」→「サウンドとオーディオデバイス」→「音量」をクリック→「マスタ音量」のスライダーで音量レベルを調節

Windows Vista

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「システム音量の調整」をクリック→スライダーで出力レベルを調節

Windows 7

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「システム音量の調整」をクリック→スライダーで出力レベルを調節

■**Macintoshの場合**

Mac OS X

「Apple」メニュー→「システム環境設定」→「サウンド」→「主音量」タブを選択してスライダーで出力レベルを調節

ご注意

- お使いのソフトウェアによっては、設定が必要な場合があります。お使いのソフトウェアの取扱説明書などをご確認ください。
- ヘッドセットの音量調節とパソコンの音声出力レベルは連動しません。

音楽CD再生の設定をするには

USBケーブルで接続した場合、本システムで音楽CDを聞くにはパソコン側の設定が必要です。パソコンのOSを確認して、下記の手順にしたがって「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」をチェックしてください。Windows Vista、Windows 7、Mac OS Xの場合、音楽CD再生の設定は不要です。

Windows XP(カテゴリ表示の場合)

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」→「サウンドとオーディオデバイス」→「ハードウェア」タブを選択→音楽再生用のCD-ROMドライブを選択して「プロパティ」をクリック→再度「プロパティ」タブをクリック→「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」をチェック

(次のページへつづく)

マイク入力レベルを調節するには

本システムをお使いになる前に、お使いのパソコンで、マイク入力レベルの設定を確認します。詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

■Windowsの場合

Windowsのサウンドレコーダーなどでマイクから入力した音声を再生し、マイク入力レベルを確認してから、下記の手順で調節してください。

Windows XP（カテゴリ表示の場合）

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」→「サウンドとオーディオデバイス」→「オーディオ」タブを選択して「録音」の「既定のデバイス」がお使いのサウンドデバイス（USBケーブルで接続時は「USB PnP Sound Device」）になっていることを確認し、「音量」をクリック→「録音コントロール（マイクボリューム）」のスライダーでマイクの入力レベルを調節

Windows Vista

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「サウンド」→「録音」タブを選択→「オーディオ録音デバイス」からお使いのサウンドデバイス（USBケーブルで接続時は「USB PnP Sound Device」）を選択して「規定値に設定」をクリック→再度お使いのサウンドデバイスを選択して「プロパティ」をクリック→「レベル」タブを選択してスライダーでマイクの入力レベルを調節

Windows 7

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「サウンド」→「録音」タブを選択→「オーディオ録音デバイス」からお使いのサウンドデバイス（USBケーブルで接続時は「USB PnP Sound Device」）を選択して「規定値に設定」をクリック→再度お使いのサウンドデバイスを選択して「プロパティ」をクリック→「レベル」タブを選択してスライダーでマイクの入力レベルを調節

■Macintoshの場合

Mac OS X

「Apple」メニュー→「システム環境設定」→「サウンド」→「入力」タブを選択してスライダーでマイクの入力レベルを調節

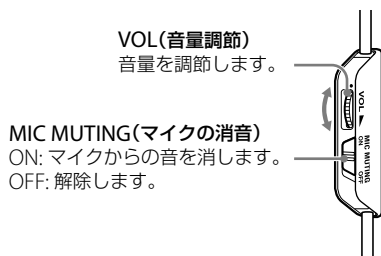
ご注意

- 本システムは、オーディオ録音デバイスのミュートに対応していません。ヘッドセットのMIC MUTING（マイクの消音）スイッチでマイクからの音を消したり、マイクの消音を解除したりできます。（17ページ）。
- お使いのソフトウェアによっては、設定が必要な場合があります。お使いのソフトウェアの取扱説明書などをご確認ください。

音声を聞く

1. **接続したパソコンの電源を入れる。**
2. **プロセッサーのI／⏻（電源オン／スタンバイ）スイッチを押す。**
   プロセッサーの電源ランプが白色に点灯します。
   初めてプロセッサーとパソコンをUSBケーブルで接続し、パソコンのOS起動後にプロセッサーの電源を入れると、USBドライバーが自動的にインストールされます。
3. **ヘッドセットを装着する（13ページ）。**
4. **パソコン側で音源を再生する。**

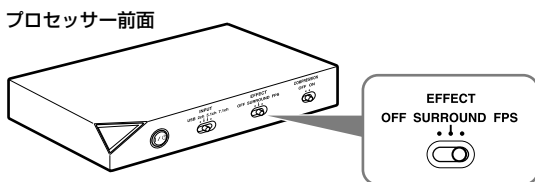
音量を調節する

ヘッドセットで聞こえる音量を調節したり、マイクからの音を消したりできます。

ご注意

- 音声を聞くときは、静かなシーンで音量を上げすぎて、急な爆発シーンなどで耳をいためないようご注意ください。
- ヘッドセットの音量調節やマイクの消音は、パソコンの音声出力レベルと連動しません。
- 音楽再生ソフトを使用中に、プロセッサーとパソコンをUSBケーブルで接続し、INPUTスイッチを「USB」にすると、音楽／音声がヘッドセットから出力されないことがあります。その場合は音楽再生ソフトを起動しなおしてください。

（次のページへつづく）

サラウンド効果を切り換える(EFFECT機能)

プロセッサーのEFFECTスイッチでお好みの音場モードに切り換えることができます。5.1ch/2ch/USB接続時でも、「FPS」または「SURROUND」を選ぶと、内蔵のドルビープロロジックIIxデコーダーにより、7.1chと同様の臨場感を得ることができます。ただし、INPUTスイッチが接続状態に合わせて正しく設定されていないと、適切なEFFECT機能は働きません。

スイッチの位置	音場モードと適した入力音源
FPS (First Person Shooting)	くっきりとした音像定位や、明確な方向感の再現を重視した設定。 忠実かつ明瞭で聞きやすい音色や自然な音質、すべてのチャンネルに対して得られる非常にシャープな定位を特徴としており、緻密な音場再現が必要とされるFPSに適しています。
SURROUND (サラウンド)	包まれ感や、各チャンネルの自然なつながり、自然な音質を重視した設定。 FPSモードに比べ拡散した音やサラウンド感が得られるような調整を施しており、マルチチャンネルサラウンドゲーム全般でのプレイに最適な音場となっています。また映画鑑賞にも適した音場となっています。
OFF(切)	ステレオ2ch再生。7.1ch/5.1chで入力された音声は、2chにダウンミックスして再生します。

ご注意

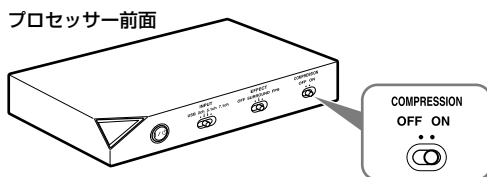
モノラル音声の場合、EFFECT機能は働きません。

EFFECT機能使用時の音の特性について

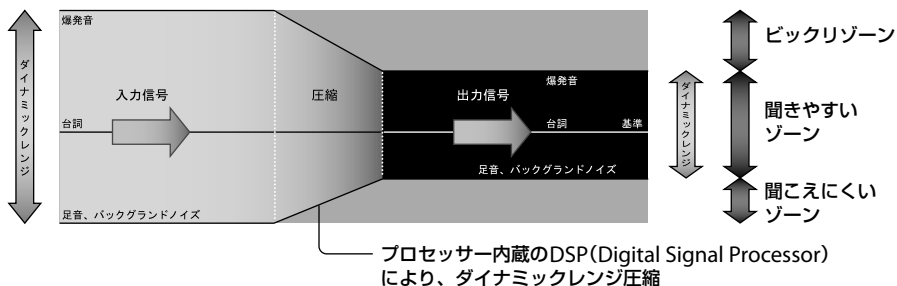
- 音楽CDのように映像を伴わない音源では、音の定位がわかりにくい場合があります。
- 本システムの**VPT(Virtualphones Technology)**によるサラウンド効果は、人間の平均的なHRTF(頭部伝達関数)*をシミュレートしたもので、その効果には個人差があります。

* HRTFはHead Related Transfer Functionの略です。音源から耳までの間で起こる、音の変化具合を数学的に表現したものです。

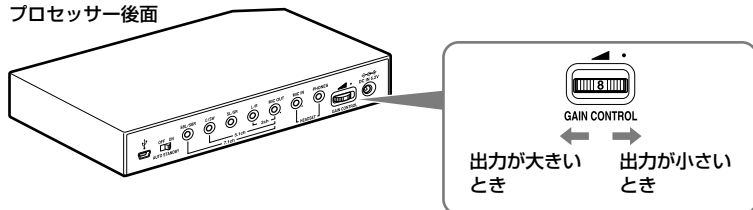
音声を聞きやすくする（COMPRESSION機能）

プロセッサーのCOMPRESSIONスイッチを「ON」にすると、爆発音のような大きな音を小さく、足音などの小さな音を大きくすることにより全体的に聞きやすくすることができます。ダイナミックレンジの広い音声信号に対して効果的です。

ご注意

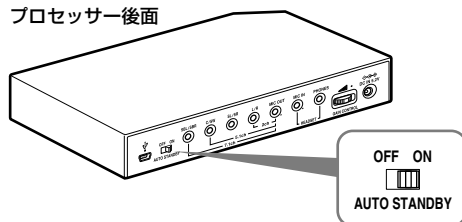
COMPRESSION機能をお使いのときは、音量の調節にご注意ください。
パソコンからの音声信号が比較的小さいときはCOMPRESSION機能により音が大きく感じられることがあります。このときは、パソコンの音量を少しずつ大きくして、全体の音が平均して聞きやすい音量になるように調節してください。
音声信号が比較的大きいときは音が小さく感じられることがあるので、パソコンの音量を少しずつ小さくして調節してください。

COMPRESSION動作イメージ図

（次のページへつづく）

サウンドデバイスからの入力音量を調節する（GAIN CONTROL）

接続先のサウンドデバイスの音声出力定格に応じて、プロセッサーのGAIN CONTROLつまみで音量を調節することができます（初期設定は「8」）。
サウンドデバイスの出力音量を最大にしても音が小さい（定格出力が小さい）場合は、GAIN CONTROLつまみを「8」より大きくしてください。また、音声がひずむ場合は、サウンドデバイス側の出力を調節してください。

サウンドデバイスの音声出力定格	GAIN CONTROLつまみの位置
2Vrms以上	「8」にあわせ、サウンドデバイス側の音声出力を下げて調節してください。
2Vrms	「8」にあわせてください。 （本システムのプロセッサーは、サウンドデバイスの定格出力が2Vrmsを基準としています。）
2Vrms以下	「8」～「10」のあいだで音量が大きくなるように、つまみを調節してください。

一定時間入力がないときにスタンバイ状態にする（AUTO STANDBY機能）

AUTO STANDBYスイッチを「ON」にすると、約30分間音声入力がないときに、本システムがスタンバイ状態になり消費電力を抑えることができます。

スイッチの位置	効果
ON	AUTO STANDBY機能が動作します。スタンバイ状態になったあとに再度使用するときは、プロセッサーの I / ⏻（電源オン／スタンバイ）スイッチを押します。
OFF	AUTO STANDBY機能が動作しません。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店または、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	• プロセッサーとパソコンの接続を確認する。 • プロセッサーに接続したパソコンの電源を入れ、再生を始める。 • プロセッサーの電源を入れる。 • 実際の接続と異なったINPUTスイッチにしている。 （例：音声入力をUSBで接続し、INPUTスイッチを「7.1ch」にしているなど） → 接続している信号に合わせたINPUTスイッチにする。 • ヘッドセットの音量を上げる。 • ヘッドセットの端子をしっかりと接続する。 • パソコンまたはお使いのソフトウェアの音量を上げる。 • 音楽再生ソフトなどの再生中に本システムを接続した。 → 音楽再生ソフトなどを起動しなおす。 • パソコンのサウンドデバイスを正しく設定する（14ページ）。 • パソコンのボリュームコントロールまたは音楽再生ソフトウェアなどがミュート（消音）になっている。 → ミュート（消音）を解除する。 • GAIN CONTROLつまみが「0」になっている。 → GAIN CONTROLつまみを数字が大きくなる方へ回す。 • USBケーブルで接続したとき、プロセッサーがUSB機器としてパソコンに認識されていない。 → パソコンを再起動する。 • USBケーブルで接続したとき、デジタル再生機能に対応していないCD-ROMドライブを使用している。 → デジタル再生機能に対応したCD-ROMドライブを使う。 • USBケーブルで接続したとき、デジタル放送の音声を聞こうとしている。 → デジタル放送の音声はパソコンのUSB端子から出力されません。マルチチャンネルケーブルでパソコンと接続してください。（9 ～ 11ページ） • 約30分間無音声が続いたためAUTO STANDBYが働いた。（20ページ） → 再度電源を入れる。
音がひずむ、 とぎれとぎれになる （同時にノイズが 出る場合もある）	• 接続したパソコンの音量を下げる。
音が小さい	• 接続したパソコンの音量を上げる。 • ヘッドセットの音量を上げる。 • GAIN CONTROLつまみを調節する。
雑音が多い	• つないだサウンドデバイスの音量を上げる。 • プロセッサーをパソコンから離す。 • 実際の接続と異なったINPUTスイッチにしている。 （例：音声入力を2chで接続し、INPUTスイッチを「7.1ch」にしているなど） → 接続している信号に合わせたINPUTスイッチにする。
EFFECT機能が 働かない	• EFFECTスイッチを「FPS」または「SURROUND」にする（18ページ）。 • モノラル音声の場合、EFFECT機能が働きません。 • 実際の接続と異なったINPUTスイッチにしている。 （例：音声入力を2chで接続し、INPUTスイッチを「7.1ch」にしているなど） → 接続している信号に合わせたINPUTスイッチにする。

（次のページへつづく）

症状	原因と対応のしかた
音が途切れる	● USBケーブルで接続したとき、パソコンのCPU負荷が大きい。 → 不要なアプリケーションを終了する。 ● USBケーブルで接続したとき、同時に他のUSB機器を使用している。 → 他のUSB機器の使用を停止する。
マイク音が入力できない	● ヘッドセットの端子をしっかりと接続する。 ● MIC MUTING(マイクの消音)になっている。 → MIC MUTINGスイッチを「OFF」にする。 ● パソコンのサウンドデバイスを正しく設定する(14ページ)。
マイク音が小さい	● ヘッドセットの端子をしっかりと接続する。 ● マイクを適正な位置に調節する。 ● パソコンのマイク入力レベルが小さすぎる。 → パソコンの入力レベルを大きくする。
マイク音に雑音が入る	● ヘッドセット(特にマイク)の近くに電灯線、蛍光灯、携帯電話などがある。 → 電灯線、蛍光灯、携帯電話などをヘッドセットから遠ざける。 ● ヘッドホンの音がマイクにもれている。 → マイクを適正な位置に調節する。
マイク音が歪んでいる	● パソコンのマイク入力レベルが大きすぎる。 → パソコンのマイク入力レベルを小さくする。
ヘッドセットのMIC MUTING(マイクの消音)が解除できない	● パソコン側でマイク入力がミュート(消音)されている。 → パソコンのマイク入力のミュート(消音)を解除する。
センターとサブウーハーの音声出力が逆になっている	● 一部のパソコンではセンター／サブウーハーの音声出力が逆になっている場合があります。詳しくはお使いのパソコンの取り扱い説明書を確認の上、パソコンの出力設定を変えてください。

使用上のご注意

取り扱いについて

- プロセッサーやヘッドセットを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
- 各機器を分解したり、開けたりしないでください。
- イヤーパッド、サポートパッドは長期の使用・保存により劣化する恐れがあります。

設置について

次のような場所には置かないでください。

- 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。
- ほこりの多い所。
- ぐらついた台の上や傾いた所。
- 振動の多い所。
- 風呂場など、湿気の多い所。

付属のACアダプターについて

- 必ず付属のACアダプター(極性統一形プラグ・JEITA規格)をお使いください。プラグの極性などが異なる製品を使うと、故障の原因になります。

極性統一形プラグ

- 電圧やプラグ極性が同じACアダプターでも、電流容量その他の要因で故障の原因になります。必ず付属のACアダプターをご使用ください。
- ACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  - ACアダプターを本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。
  - 火災や感電の危険をさけるために、ACアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。
- 長い間使わないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っぱらずに必ずACアダプター本体をつかんで抜いてください。

ヘッドセットについて

まわりの人のことを考えて

ヘッドセットは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドセットで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液でしめらせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

- 万一異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にお持ちになる際は、必ずヘッドセットとプロセッサーを一緒にお持ちください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではデジタルサラウンドヘッドセットシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。

主な仕様

プロセッサー　DP-GA500

デコーダー機能
ドルビープロロジックIIx
バーチャルサラウンド機能
OFF
SURROUND
FPS
コンプレッション機能
OFF
ON
再生周波数帯域
20 ～ 20,000 Hz
ひずみ率　1 %以下（1 kHz）
音声入出力　USB端子
7.1ch / 5.1ch / 2ch（SBL/SBR、C/SW、SL/SR、L/R、MIC OUT）端子（ミニジャック／ステレオ）
HEADSET（PHONES、MIC IN）端子（ミニジャック／ステレオ）
電源　DC 5.2 V（付属のACアダプターを使用）
最大外形寸法　約190 × 30 × 117 mm（幅／高さ／奥行き）
質量　約310 g
動作環境　対応パソコン：IBM PC/AT互換機、Apple製Macintosh
CPU：Pentium II 266 MHz 以上
USB端子装備*[1]

対応OS
Windows7　Starter/Home Basic/Home Premium/Professional/Ultimate
Windows Vista　Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate
Windows XP　Home Edition（SP2以降）/Professional（SP2以降）/Media Center Edition 2004（SP2以降）/Media Center Edition 2005（SP2以降）
Mac OS X（10.3以降）

ヘッドセット　DR-GA210

コード　約 1.5 m
プラグ　金メッキステレオミニプラグ
質量　約 240 g（コード含まず）

＜ヘッドホン＞
形式　オープンエアダイナミック型
ドライバー　40 mm（CCAW採用）ドーム型
最大入力　1,000 mW（IEC*[2]）
インピーダンス
40 Ω（1 kHzにて）
音圧感度　100 dB/mW
再生周波数帯域
14 ～ 22,000 Hz
＜マイク＞
方式　ブームマイクロホン
型式　エレクトレットコンデンサー型
開回路電圧レベル
–38 dB（0 dB＝1 V/Pa）
有効周波数帯域
20 ～ 20,000 Hz

付属品

ACアダプター（5.2 V）（1）
マルチチャンネルケーブル（1）
USBケーブル（1）
取扱説明書（本書）（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
その他印刷物一式

*[1] 本機はUSB2.0 Full Speedに対応しています。
*[2] IEC（国際電気標準会議）規格による測定値です。

- すべてのパソコンについて動作保証するものではありません。
- 自作パソコンおよびOSの個人でのアップグレード、マルチブート環境での動作保証はいたしません。
- すべてのパソコンに対して、システムサスペンド、スリープ、ハイバネーションなどの動作を保証するものではありません。

（次のページへつづく）

ご注意
CE マークは主にEEA(European Economic Area)各国など、法律に定められた国においてのみ有効です。

本システムの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 本システムのプロセッサーは、ドルビープロロジックIIxデコーダーを搭載しています。
  本システムのプロセッサーはドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
  Dolby、ドルビー、Pro Logic、およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- Virtualphones Technology および VPTは、ソニーの商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/ATは、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- Pentiumは、Intel Corporation の登録商標または商標です。
- 本書ではWindows® XP Home Edition、Windows® XP ProfessionalおよびWindows® XP Media Center EditionをWindows XPと記載しています。
- 本書ではWindows Vista®をWindows Vistaと記載しています。
- 本書ではWindows® 7 EditionをWindows 7と記載しています。
- 本書ではMacintosh®をMacintoshと記載しています。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。
- この取扱説明書に記載しているパソコン画面の用語は、実際の用語と異なることがあります。

製品登録のおすすめ

ソニーは、製品をご購入いただいたお客様のサポートの充実を図るため、製品登録をお願いしております。詳しくはウェブ上の案内をご覧ください。

パソコンから

http://www.sony.co.jp/avp-regi/

携帯電話から

2次元コード対応のカメラつき携帯電話の読み取り機能でご利用ください。

http://reg.msc.m.sony.jp/avp/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「309」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 4 1 9 4 1 5 4 0 1 * (1)